

だって目薬なんて好きじゃないんだ。

彼女は唐突にそんなことを言い出した。というか意味がわからない。

私はいつものように彼女が通っている眼科に行っている。一緒に行っている。

好きなだけ休んでくれと言われたから、彼女は目の治療をしに来た。

最近彼女は目が痛むという。何かあったのだろうか、考えてみるが、仕事柄そのようなことが起きていたのかもしれない。

じつと画面を見つめていたり、遠い景色をお陽様の陽射しがかかっていることに気が付き、そのままお陽様に目がやられたのか。

何が起きたのかわからないが、とにかく、私も同行した。

先生に呼ばれる。お医者さんはどうやら、何かを言いたげに私にアイコンタクトを送ってくる。

私はついていく。何かあったのだろうか。

彼女が寝台の上で横になっている。そしてお医者さんが目薬を用意。

目薬なんて嫌いなんだよ。

そんなことを彼女は思っているのか、目を閉じる。

そしてゆっくりとお医者さんが目薬を直す。そのまま指を目の上に軽くかざす。

その気持ち良さで思いつき目を開いた彼女は笑っていた。

よかつたと、なぜか言葉に変えた。

時々、そんな風に目薬を差すことを拒むが、その代わり私がお医者さん役だ。だって目薬なんて好きじゃないんだ。

彼女はまたそんなことを言って、私に指を差し示した。